

## 新 令和3年度 国保データベースシステム活用事業の概要

### 1 事業目的

全市町に「国保データベース（KDB）システム」※ を補完する新システムを導入することで、保健事業の実施に必要な国保・後期・介護のデータを一括集積、分析・評価が容易にできる環境を整備し、市町におけるデータ活用による保健事業の展開を支援する。

#### ※国保データベース（KDB）システム

「健診」「医療」「介護」等の情報を活用し、市町の保健事業に必要な統計情報の作成や地域の現状把握、保健事業の分析等を行うシステム。

### 2 現状・課題

現行の KDB システムは、あらかじめデータの抽出条件が設定されており決まった帳票しか作成できないこと、またデータ抽出が複雑であり保健事業に必要なデータ加工に時間を要するなどの課題がある。

### 3 事業概要

市町がデータ分析等を容易にするための新システムの導入

- ・ KDB システム等の複数のシステムから「健診」「医療」「介護」情報のデータベースを構築。
- ・ 既存のネットワーク（裏面参照）を介し、今回構築するデータベースに、市町保険者の端末からアクセスし、容易にデータ抽出、分析・評価できる新システムを導入。

### 4 事業期間

令和3年4月～令和4年3月

（令和3年度にシステムを導入し、令和4年度から稼働予定）

### 5 事業効果

第3期医療費適正化計画に掲げる目標を達成するためには、県として、データ活用による健康課題の把握、人材育成、市町との共同事業といった観点から、医療保険者の取組を支援することが重要。

本システムは、市町における特定健診、重症化予防、医薬品の適正使用をはじめとする様々な保健事業、医療費適正化の取組を支援するもの。

#### <保健事業への活用例>

◎特定健診受診率・特定保健指導実施率向上 データ分析に基づく対象者に合わせた受診勧奨に活用。	◎糖尿病等の重症化予防 月単位で対象者を把握し、タイムリーな介入が可能。
◎後発医薬品の使用促進 使用状況（後発品かどうか、後発品の有無、単価等）の把握が容易に可能。	◎重複・多剤投与者に対する取組 対象者の抽出および多剤重複処方している医療機関や医薬品の把握が容易に可能。 事業実施前後の服薬改善状況を容易に把握。
◎データヘルス計画の推進 医療費や疾病統計の経年変化の把握。 県内統一指標による事業評価。	◎地域包括ケアの推進に関する取組の実施 日常生活圏域ごとの医療と介護の情報を一括把握でき、地域の健康課題の明確化が可能。

※各取組については、保険者努力支援制度の評価指標になっている。

<参考>

システム概要図

